

ちよつとしい話

～ 御開帳の西國観音霊場 ～

21年11月1日

西國 33 ヵ所の観音霊場にとって忘れてはならない大切な方に西國霊場を支えた花山かざん法皇と言う方がみえました。此の度、花山法皇様むかの1000年忌を迎えるに当たり、一斉にいっせい結縁の特別開帳をして頂いております。尊き観音様の御開帳スローガンは「覚醒 観世音菩薩 慈悲の心」とされ、日本人が古来より大切にしてきた「謙虚な心、慈しみの心、命の尊さ、人を思いやる心」かいこを回顧しながら慈悲深い観音様を眼前に拝し、再び思い起こして現在の自分を見つめ直し観音様の御心みこころに沿った人生を歩んで欲しいと願っての御開帳であると思っています。我々の日常生活は「目は魂そむに背き目違いを起こさせ、耳は魂めちがの声を聞かず、口は魂べんぜつの弁舌をせず」自分の勝手、都合で世渡りつごうをしようとし、自分の都合ばかりで身を勞すれば、やがて我が身は進むべき方向を見失う事になるでしょう。お遍路さん、お遍路に出れば同行2人だと思っ見える方も多いでしょう。私が思いますには日々の暮らしに於いて家族てんがいこどくがあろうが天涯孤独であらうが同行2人なのです。眼には見えず、耳には聞こえずとも、信仰の道を歩めば己が身の行動には影に御佛みほとけが寄り添い見守って下さいます。必ずやご加護を頂けるはずで。無神論となを称える方も見えますが、私はまだ仏教について仏教を論じる力は無く不可能です。ましてや他の宗教を論じる事など到底考えられません。一生かけても一宗教の一部門しょうあくを掌握できるか疑問です。例えば、ニュアンスは違いますが車には強いが農業や他の産業には弱いと言うような事です。

当山に於きましても今回の特別開帳に際し同行9名にて4回に分けて巡拝をさせて頂いています。百数十年ぶりの御開帳の観音様、早くて十数年ぶりの御開帳とあって、感激ひとしおです。歴史ある寺々の荘厳なる堂塔をはじめ山野に囲まれた山紫水明の境内地、浮世の思いは去り、知らず知らずの内に清浄の心さんしすいめいに変わっているのです。不思議なものです。身の丈15センチの観音様から10メートルの観音様と大きさ御姿は様々さまさまであり一々記憶には留める事は出来ませんが胸きおくに抱く感激は誰のものでもなく我が身に受ける陰徳いんとくでしょう。33ヵ所が一度に御開帳をする事が今後あるか無いか知る事はできませんが今回御縁を結べた、その機会ほうえつを与えて頂いた一機一縁の法悦、我々の生命いっどこは何時何処で果てるのか知る由よしもございません。今後とも尊い一生の内に色々な仏縁に会えたらと思っています。

巍 巍 (崇高)

善壽界 善入院油掛地藏尊